

第3回目（続）「サバ神社」個別の由緒

（2023年8月16日放送）

今回は、前回の続きで残る5社個別の概要と由緒を説明します。

9社目は、廃絶された東俣野の「サバ神社」です。『相風記』では「馬サバ」の「左馬明神社」と記載され、所在地は鎌倉郡西見庄東俣野村とあります。創立年や由緒は不明ですが現在地は郷土史家川戸清氏により横浜市戸塚区東俣野町1279に同定されています。村民持で主祭神は源義朝でした。境川左岸に位置していました。

10社目は引地川沿い唯一の「サバ神社」である現藤沢市石川にある「波サバ」の「佐波神社」です。『相風記』では「魚サバ」の「鯖明神社」と記載され、それ以前は「左馬頭神社」とされ、所在地は高座郡大庭庄石川村とあります。戦国時代、当地で勢力のあった石川六人衆によって慶長16（1611）年頃に勧請されたと、『県神社誌』に記載があり、村民持と伝わります。現在地は藤沢市石川141ですが、水害のあと高台に避難し、再び「波サバ」と称したと伝わります。主祭神は源義朝で、引地川右岸に並行して南向きに位置しています。

11社目からは境川支流である和泉川沿いで泉区に所在する3社です。まずは、横浜市泉区内では最も北に位置する「婆サバ」の「佐婆神社」です。単に左の「婆サバ」表記もありますが、人偏を付けるか否かは、敬意を表する意味程度ではないでしょうか。沢の地形由来の名称かも知れません。『相風記』には記載がありません。所在地は鎌倉郡山ノ内庄和泉村神田です。創立者は伊予河野氏の後裔である石川治左衛門であり、寛文年中（1661-72）の創建と伝わりますが、『県神社誌』では慶長年中（1596-1614）の勧請とあります。現在地は横浜市泉区和泉町4811で、主祭神は源満仲です。和泉川右岸に直面して東向きに位置しています。

12社目は、横浜市泉区内3社では中央に位置する「馬サバ」の「左馬神社」です。『相風記』では「魚サバ」の「鯖明神社」と記載されますが、一時的な変遷で元来は「馬サバ」の「左馬神社」といわれます。所在地は鎌倉郡山ノ内庄和泉村中の宮です。鎌倉期源家隆盛の頃の勧請といわれますが、『県神社誌』では寛永2（1625）年地頭松平崇敬が再興とされます。現存する密蔵院持です。現在地は横浜市泉区和泉町3253で、主祭神は源満仲です。和泉川右岸に直面して東向きに位置しています。

最後の13社目は、横浜市泉区内3社では最も南に位置する「魚サバ」の「鯖神社」です。『相風記』には記載がありません。所在地は鎌倉郡山ノ内庄和泉村鍋屋です。郷土清水氏、鈴木氏が氏神として慶長年間（1596-1614）に勧請したと『県神社誌』に記載があります。現在地は横浜市泉区和泉町705で、主祭神は源満仲です。和泉川左岸に直面して唯一西向きに位置しています。

ここからは第1回から今回にかけて取り上げた「サバ神社」の不思議・謎を洗い出します。

- ① 東西3km、南北10km四方という狭い地域に、現存する12社が何故集中しているのか。<地域不思議>
- ② 主祭神は源義朝であり、例外的に境川支流である和泉川流域の3社のみ義朝から六代先祖である源満仲なのか、です。全国的に源義朝を祭神とする神社は存在しません。満仲を祭神とする例も兵庫県川西市の多田神社1社のみです。全国的にこのような状況下において、当地の「サバ神社」にこの二人が祭神として祀られたのはなぜか。<祭神不思議>
- ③ 「サバ」という音を持つ神社の称号、即ち社号が「馬サバ」、「魚サバ」、「波サバ」、「婆サバ」と多岐にわたり、更に、人偏の「佐」が付く「馬サバ」の「佐馬」、や左の「婆サバ」の「左婆」や類似の音である「佐間（さま）」の社号が付いた歴史がある。<社号不思議>
- ④ 現存する12社の社殿は境川・引地川・和泉川に沿った高台に南向きに8社、東向きに3社、西向きに1社面しています。境川・引地川に限定すると流路に沿って9社のうち8社が高台に南向きに立っているというのは一般的な社殿の位置・方角のばらつきからすると、「サバ神社」の大きな特徴です。<社殿位置不思議>
- ⑤ 引地川沿岸のみ1社だけが祀られているのはなぜでしょうか。<引地川不思議>
- ⑥ 鎌倉周辺で鎌倉権五郎景政を主祭神とする「御霊神社（ごりょう神社あるいはごれい神社）」との関係性です。近世村単位に混在する神明社・天王社・山王社などと異なり、「サバ神社」と「御霊神社」は同一の村では並存しません。「サバ神社」のある俣野内には「御霊神社」は無く、「御霊神社」のある戸塚区汲沢（ぐみさわ）・同じく深谷などには「サバ神社」がありません。なぜでしょうか。<「御霊神社」との関係性不思議>

これからはこれらの不思議・謎について郷土史研究家の意見も参考にしながら解明を進めたいと思います。